7.実地調査結果

7.現地調査の実施

(1)内容

対象地域内における選定されたエリアについて、移動を含め、外国人モニター及び有識者による現地調査を行い、調査後のアンケートを実施し、ディスカッションを行った。
実際に地域内に来られた外国人旅行者にもヒアリングを実施した。

●現地調査
当該地区駅から、バス、鉄道に乗り、今回選定されたエリアを周遊しながら点検を行い、アンケートへの記入をしていただいた。
併せて、有識者による調査も行い、意見拝聴も行なった。
また、当該地区関係自治体・事業者等のご協力により、実際の外国人旅行者に対してもアンケート調査を行っていただいた。
●有識者
大阪観光大学　教授　土屋　渉

(2)調査の視点

当該地区地域内において、改善されたサイン表記における理解度及び適正度やホスピタリティの有無等を視点として調査を行った。
また、今回提案した「ピクトグラム+ナンバーリング」によって、言葉の壁をどの程度補っていく事が可能かも視野に入れた調査を行った。

1. 交通拠点から各目的地までのスムーズな移動及び安心感とホスピタリティを持てたかどうかを確認し、改善すべきところは改善が行えるように記録する。

2. 目的地での移動がスムーズにできたかを確認し、改善に繋げる。
問題点の再度の洗い出しを実施予定。

3. サイン関係の表記に不適切な表現や視覚的に気分を損ねるものはなかったか等の確認とともに改善策を記録する。

4. 手持ちマップ及び目的地の観光案内図、誘導サインの「ピクトグラム+ナンバー」の表記のリンクに関して、理解ができ、行動に関して不自由な点がないか調査する。

7.現地調査の実施

(3)調査体制(メンバー構成)

現地調査の体制

・外国人モニター
・有識者(大阪観光大学　土屋　渉　教授)
・外国人旅行者(アンケート調査)
・当該地区関係自治体
・当該地区関係事業者
・事務局(電通)

◆外国人モニター内訳

事前調査(参加者)

	母国語	性別
1	英語	女性
2	英語	男性
3	中国語繁体	男性
4	中国語繁体	男性
5	中国語簡体	女性
6	韓国語	女性
有識者	(土屋　教授)	男

検証調査(参加者)

	母国語	性別
1	中国語	女
2	中国語	男
3	中国語	男
4	英語	男
5	英語	女
6	英語	男
7	韓国語	男
8	韓国語	女
9	中国語	女
10	中国語	女
11	英語	女
有識者	(土屋　教授)	男

新宮エリア多言語化設置後調査について

新宮駅付近

観光案内所に「ｉ」マーク表示を目立つところに複数個所設置することによりフリーの外国人客にとって利便性が高まり、観光案内所への誘導の目的が充分達成できたと言える。
観光案内所からバス乗り場への導線についても、統一した色彩の案内表示、観光案内図による誘導導線ができており、時刻表、行先表示の多言語化と併せて外国人観光客への利便性が向上した。結果として日本人観光客、地元住民にとっても充実した表示になったと言え、地域の外国人観光客の受入れ体制にも寄与したと言える。

熊野速玉神社・瀞峡エリア

熊野速玉大社では周りの景観に合わせた今回の多言語案内版を設置することで、外国人にも歴史的に重要な施設であることを印象づけることができたと言える。
他の南紀エリア同様、中国人を中心とするアジア人団体観光客の増加が著しいので、この看板設置は充分効果があると言える。
瀞峡の船乗場では多言語案内表示以前の問題として災害からの復旧がまず望まれるところであった。今回の多言語案内表示では新たな施設ができても対応できる案内表示を設置したので、今後はこのエリアでは外国人観光客に人気のある数少ない自然体験型の観光施設であり、新施設にもこの多言語案内表示を更に充実させることが望まれる。

今後の課題

今後はこの駅ターミナルの拠点整備を活かし、観光案内所でのイベント情報等季節性のある情報をインターネット経由で発信し、タイムリーな情報を多言語で外国人観光客に発信していく機能を充実することが望まれる。それぞれの観光拠点では今回の多言語案内表示をきっかけに、施設側が地元自治体、観光協会と協議し、少しずつでも多言語案内表示を充実させ、観光施設の持つ由来等を発信することが望まれる。

9.現地調査の実施

■新宮駅　観光案内所入り口　バス車内

01a

01b

01b

事前調査

●英語表記が小さめで遠目には分かりづらい。（英）

＜参考意見＞

●案内所内のパンフレット棚は英・中・韓と分かれていて便利。（英）

●熊野速玉大社にちなんだ構内のサッカー関連の展示の説明は日本語のみ。（英）

●バス車内には多言語案内がなかった。（英）

検証調査

●駅から出てすぐ正面にサインが見えたのは分かりやすい。（英・中）

●大き目のピクトグラムで目立つ。（英）

●4ヶ国語で書いてあるのでよい。（中）

●観光客が町に入る出発点となる駅には多言語化したタッチパネルを設置すると良いのではないか。（英）

●バス車内の多言語案内は分かりやすかった。（英）

＜土屋先生の意見＞

●日本の観光案内所の看板は「ｉ」「？」が混在。「ｉ」はヨーロッパ、「？」はアメリカ・空港が主流。観光客がどこからが多いかによって決めるべき。アジアはアメリカの影響が強いので「？」の方がいいかもしれない。

■新宮駅　瀞峡案内所

02a

事前調査

●日本語の表示しかないのでどこが乗り場か分からない。（英）

●事前に調べておかないと乗り場の場所が分からない。（英）

●バス乗り場が発券所の建物の裏なので分かりづらい。（英）

検証調査

●観光案内所と同じ青のサインが遠目にでも識別できるので何か案内サインがあるのだろうと予測できる。（中）

●4言語で書かれているので分かりやすい。（英）

●船のピクトグラムだが、バスにした方がバス停と認識しやすいかもしれない。（英）

●瀞峡行きバスの値段と時刻も同時に記載してほしい。（英）

●建物の裏に回り込んだ場所にバス乗り場があるため分かりにくい。（英・中）

7.現地調査の実施

■新宮駅　お燈祭り銅像横サイン（駅前案内図）

2c

事前調査

●駅を出たところにある案内地図には英語表記があるが、近隣の観光地への交通機関の情報がない。（英）

●バス乗り場がどこにあるのか分かりづらく、駅を出たところに案内がないと少し迷ってしまう。（英）

検証調査

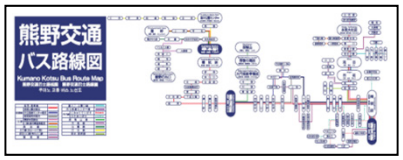
●駅のメイン出口を出たところにあるのですぐに目に留まるが、できればもう少し大きいほうがよい。（英）

●文字は小さいがそこに何かあると分かるだけで次への行動の助けになり、そこからバス乗り場の方を向けば、乗り場が目に入る。（中）

●隣りに大きな地図掲示板あり、それに目をむけると本サインを見落とす可能性がある。（英）

■新宮駅　熊野交通バスターミナル　路線図

03a



03b

事前調査

●バス停の時刻表が日本語表記だけなので分からない。（英）

●路線図も日本語表記だけなのでバスに乗るためには勇気が必要。（英）

検証調査

●文字が小さいが、このサインによって目的地と料金は理解ができる。（中）

●文字が小さくて見にくい。（英・中）

●とても便利で助かる。（英）

＜土屋先生の意見＞

●バスの路線図の主な停車地に、観光スポットの案内があるとさらに理解が早い。但し、数多く羅列しても余計に分かりにくくなるので、人気観光地ベスト3程度に絞ってピクトグラムで表記するとよい。

7.現地調査の実施

■新宮駅　熊野交通バスターミナル　乗り場

2c

事前調査

●バスを待っているときに行き先の地理的情報をイメージしたい。（英）

●路線図だけでは目的地への距離感が分からない。（英）

検証調査

●自動販売機の後ろなので少し見つけくい。（英）

●文字がやや小さいが観光地の位置関係がよくイメージできる。（中）

●全体的に見やすい。「現在地」が分かるようにすればなおよい。（英）

■新宮駅　熊野交通バスターミナル　乗り場

5a

5b

5c

5d

事前調査

●ナンバリングは分かりやすいが目的地が日本語表記だけなのでどれに乗ればよいか分からない。（英）

検証調査

●デザインが統一されていて見やすい。（英・中）

●行き先の観光地名が英語表記なので分かりやすい。（英）

●観光地以外の行き先の表示は日本語だけだが、無駄な案内が無い分、素早く目的地の乗り場を探すことができる。（英・中）

●このサインのナンバリングが路線図やターミナル外の大きな看板や駅などの案内板にも共通してあれば分かりやすい。（英・中）

＜その他＞

●バス乗り場の建物に掲げられた看板は大きいうえ、バスの絵や行き先の表記があって分かりやすい。（英・中／土屋先生）

7.現地調査の実施

■熊野速玉大社

06a

事前調査

●境内への導線はシンプルなので迷うことはないが、誘導看板は日本語だけなので分からない。（英）

検証調査

●神社や行動は規制の問題があるが、参道から見つけにくい設置場所なので気づかない可能性がある。（英・中／土屋先生）

●デザインがよい。（英・中）

●説明の文章が長くて理解しにくいので、外国人観光客用にはもっとシンプルな解説でもよい。（英・中）

7.現地調査の実施

■熊野川行政局（熊野川川舟センター）

06a

事前調査

●現状サインがなく、海外の観光客がこの施設を理解して訪れる可能性は低い。（英）

検証調査

●チケット売り場がどこか分からない。（英）

●このサイン自体が乗り場にある方が良い。（中）

●多言語対応されていてサインとしては分かりやすい。（英）

＜土屋先生の意見＞

●場所が分かりにくいため個人で来るのは難しい。

●乗り場と離れた場所にあり、チケット売場と勘違いする可能性がある。看板は「熊野川舟センター」だが、同センターの説明ではなく川下りの由来と熊野川で川下りができることが説明されている。

■志古　ウォータージェット船乗り場

08a

事前調査

●チケット売場は日本語表記だが、バス停から建物が見えるうえに、ほかに建物はココしかないので迷わない。（英）

●時刻表は日本語表記だけで理解できない。（英）

検証調査

●全体的に見やすい。（英）

●複雑だが、じっくり説明を読めば理解できる。（英）

●船と、接続のタクシー･バスの情報を別のサインに分けた方が分かりやすい。（中・英）

●スペースがあれば、もっと大きい表示の方が見やすい。（中）

●バス、船、タクシーのピクトグラムが入っているともっと分かりやすい。（英）

●時刻に書かれた「★」「※」、同じ時刻表の枠の中に時刻が1つ書かれている枠と2つ書かれている枠、矢印が分かりにくい。なかでも「※」が各所に使われているので紛らわしい。「★」「※」は、バスとタクシーの絵にした方が分かりやすい。（中・英）

＜土屋先生＞

●案内要素が詰め込まれているので、外国人向けにはできるだけシンプルにする工夫も必要。

紀伊勝浦地区多言語化設置後調査について

紀伊勝浦駅付近

観光案内所は那智勝浦駅と同じ建物にあるが、通路、階段等に外国語の誘導表示がされていなかったため、多言語化およびピクト表示の案内板を設置したので、更に外国人観光客への利便性が高まったと言える。駅・観光案内所からバスターミナル、観光案内地図は一目で見渡すことができるが、バス路線図、時刻表等全てが外国人にはわかりやすい表示ではなかった。今回の多言語案内表示では他の地区と同じコンセプトでデザインされた分かりやすい多言語表示になったので、外国人にとって利便性が向上したと言える。紀伊勝浦駅は紀の松島、温泉、那智山、瀞峡と多岐にわたる観光地の拠点なので、分かりやすく多言語で案内表示を設置したことは今後の外国人観光客増加に対応する整備になったと言える。外国人モニターからも多言語案内表示設置前後を比較すると、分かりやすくなったとの意見が多くみられた。

観光船乗り場、那智山、那智の滝

観光船乗場では今までがほとんどの観光客が国内からであったので、充分な外国人向け案内表示がされてこなかった。しかし、今後は温泉を嗜好するアジア、特に中国からの観光客のニーズに対応することが観光地としての成長に不可欠。その観点から今回の紀の松島、勝浦港の船乗場の多言語案内表示は目的地にある温泉への導入口として充分な役割を果たしたと言える。外国人モニターからも駅の足湯施設も含めて、温泉への人気が高く、ひとりで来ても目的地の温泉にたどりつける今回の案内表示への評価は高かった。
那智山、那智の滝については世界遺産施設であることもあり、多くの多言語案内表示が見られた。しかし、今回の調査のように導線発想の案内表示がなかった。今回の調査でバス移動を前提とした多言語案内表示をおこなったが、外国人モニターからも乗換駅も含めた情報発信ができているとの意見があった。熊野古道の「歩く」という観光コンセプトを考えれば今回の調査でバス停、時刻表の案内表示までも多言語にすることは、世界遺産を持つエリアとして重要であることが分かった。

今後の課題

紀伊勝浦駅からの公共交通を使っての外国人観光には料金システム、情報発信力にはまだ課題があると言える。現在整備されつつあるフリー切符をJRバスと連動させたり、フリー切符中心の観光案内図、モデル観光ルートを多言語で整備することにより、今回の多言語案内表示と併せて、外国人観光客の利便性を向上させることが重要。

7.現地調査の実施

■紀伊勝浦駅　観光案内所

09a

事前調査

●改札口を出て観光案内所へは那智の石に沿って進むのは面白いが途中で途切れているので、不安になる。（英）

●日英表記はあるがピクトグラムがないため分かりづらい。（英）

検証調査

●階段をおりてすぐに目に入るので分かりやすい。（中）

●ピクトグラムがよく目立つ。（英）

●とくに不都合を感じない。（中）

●バス停にはバスのピクトグラムがあると分かりやすい。（英・中）

■紀伊勝浦　駅前足湯サイン

09a

事前調査

●駅からの階段を下りたところにある足湯のところから熊野交通のバス乗り場が見えにくい。（英）

●階段下は駅の出口にあたるが、そこにサインがないのでスムーズに目的地に行けない。（英）

検証調査時

●階段をおりてすぐに目に入るので移動がスムーズに行える。（英）

●サインの矢印とピクトグラム分かりやすく文字を読まなくても行き先が分かる。（英・中）

7.現地調査の実施

■紀伊勝浦　駅階段部分サイン

09a

事前調査

●メインの案内板が多言語化されていない。（英）

●バス乗り場への矢印が厳密でなく、間違ったところに出てしまう可能性がある。（英）

検証調査

●従来のサインに加えて目線の先に大きなピクトグラムが入り、分かりやすい。（英）

●サインの矢印とピクトグラムがわかりやすく、文字を読まなくても行き先が分かる。（中）

●文字は小さいが、多言語対応しているので迷わない。（英）

＜土屋先生の意見＞

●以前より誘導看板が工夫されて設置され、分かりやすくなっている。

●1階の誘導サインはスペースが余っているので、大きくするとさらによい 。

■紀伊勝浦駅前　熊野交通バス乗り場

09a

事前調査時

●バス乗り場は分からなかったが、建物に近づいて時刻表を見て、バスのピクトグラムに気づいてはじめて認識できた。（英）

●那智山方面への時刻表及び割引案内は日本語表記なので分からない。（英）

検証調査時

●多言語化されているので目的地行きのバスの時刻が分かる。（英）

●文字が少し小さいが、分かりやすいデザイン。（中）

●割引やフリー乗降についての表現がやや複雑で分かりにくい。（英）

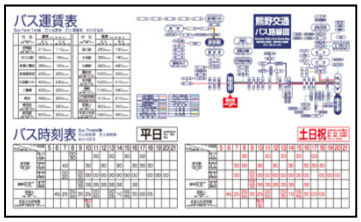
＜土屋先生の意見＞

●以前より誘導サインが工夫して設置され、分かりやすくなっている。

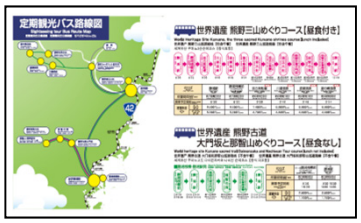
7.現地調査の実施

■紀伊勝浦駅前　熊野交通バス乗り場

12b



12c



12d

事前調査

●瀞峡ウォータージェット船時刻表は日本語表記で分からない。(英)

●定期観光バスおよび路線バスの路線図が日本語表記で、行き先を探すことができない。(英)

検証調査

●路線図(12b)は主要バス停の「勝浦駅」「新宮駅」「串本駅」が青地に白抜き文字の表記で差別化されているので分かりやすい。(英)

●運賃表も「勝浦駅」「新宮駅」「串本駅」を青地に白抜き文字にするとさらに分かりやすい。(中)

●時刻表(12b)は分かりやすい。(中)

●路線図(12c)がコースによって緑とピンクに色分けされていて分かりやすい。(中)

●路線図(12c)に「紀伊勝浦駅」と表記されているが、コースは「勝浦駅」になっているので、違う駅のような気がする。(中)

●各サインに、バス、タクシー、船などのピクトグラムをもっと活用すれば分かりやすいし、誘導サインと統一するとなおよい。(英)

●路線図(12b)と運賃表の各駅にリンクする数字かマークがあれば、外国人でも識別しやすい。(中)

●「現在地(You are here)」(12bに表記)が12cと12dにも赤字で示してあると分かりやすい。(英)

●英語表記がやや小さくて読みづらい。(英)

＜土屋先生の意見＞

●外国人観光客にとっては、路線バスで観光スポットを巡るよりも定期観光バスを利用した方が便利。とくに半日コースは値段も手頃なので多くの利用者が期待できる。定期観光バスは4本あったはずなので、「定期観光バス路線図」をもっと強調すべき。

●多言語化され、中国人・韓国人にも分かりやすくなった。レイアウトもすっきりし、統一感もあって見やすくなった。

●各サインの内容をそのままパンフレットにも記載するとよい。

7.現地調査の実施

■紀伊勝浦駅前　熊野交通バス乗り場

12e

事前調査

●バスが停車していればバス乗り場とわかるが、停車していなければ分からない。（英）

●サインは日本語表記のみなのでバス乗り場と分からない。（英）

●バス乗り場前のサインを見つけて初めて認識した。（英）

検証調査

●大きくて目立つが、バスのピクトグラムやイラストがあるとさらに分かりやすい。（英・中）

●建物の構造やレンタカーの赤い看板のせいで、消防署と勘違いしそうになった。（英）

●建物にバスのピクトグラムや絵があればもっと分かりやすい。（英・中）

■勝浦桟橋　バスターミナル

13a

事前調査

●乗船場やチケット売場に英語表記はないが、バス乗り場から見えるので問題ない。（英）

検証調査時

●全体的に統一されていて分かりやすい。（英・中）

●ピクトグラムと矢印がより分かりやすくなっている。（英・中）

●「足湯」までの距離が表記されているとさらによい。（英）

●「湯」は中国語で「スープ」という意味。私は日本語がわかるので問題なかったが、日本語がわからない中国人観光客は解釈に戸惑うかもしれない。（中）

7.現地調査の実施

■勝浦港　紀の松島観光船

14a

事前調査

●乗船場やチケット売場に英語表記はないが、バス乗り場から見えるので問題ない。（英）

検証調査

●よく目立ち、見過ごさない。（英）

●乗り場までの距離表示があるとさらによい。（英）

●文字も大きく、ピクトグラムもバスターミナルと共通で分かりやすい。（中）

7.現地調査の実施

■勝浦港　紀の松島観光船

14a

14bc

事前調査

●乗船場やチケット売場に英語表記はないが、バス乗り場から見えるので問題ない。（英）

検証調査

●分かりやすい。（英・中）

●ピクトグラムがあるので、AコースとCコースの差も分かりやすい。（中）

●Bコースがないのが気になる。（英）

●くじら浜公園のピクトグラムは、くじらがウォッチできる場所と誤解する可能性がある。（英）

●絵に加えてもう少し説明が欲しい。クジラを見るなら行きたいけど、食べるなら行きたくないという人もいる。（英）

＜土屋先生の意見＞

●サインの内容をそのままパンフレットにも記載するとよい。

■勝浦港　紀の松島観光船

14ef

14g

事前調査

●英語表記しかなく切符売り場が分からない。（英）

検証調査

●ひと目で船とわかるピクトグラムで便利。（中）

●サイン自体が大きく目立つ。（英・中）

●14gのサインにも切符売場の記載がほしい。（中）

7.現地調査の実施

■那智山　那智の滝

17a

事前調査

●周辺の誘導サインなどがほとんど日本語表記になっている。（英）

検証調査

●矢印の先に滝が見えるので分かりやすい。（英）

●ピクトグラムが素晴らしい。（英）

■那智山　大門坂駐車場

18a

事前調査

●周辺の誘導サインなどがほとんど日本語表記になっている。（英）

検証調査

●気づきやすい色調。（英）

●英語の説明は分かりやすかった。（英）

●サインの設置場所は大門坂ではないので、ここで説明は必要性が低い。（英・中）

●突然このポイントでサインの色調が変わる意味が分からない。（中）

●大門坂自体の意味を知りたい。（英）

＜土屋先生の意見＞

●サインの近くに散策路の地図看板があるので、その横に設置する方がよい。誤解されないためにも大門坂の方向を示す矢印を入れた方がよい。

7.現地調査の実施

■那智山　参道入口サイン

15a

事前調査

●バス停から参道への階段は日本語の誘導サインさけで分からない。ピクトグラムなどがあるとよい。（英）

検証調査

●よく目立つ場所に設置してあり分かりやすい。（英）

●色が分かりやすい。（英・中）

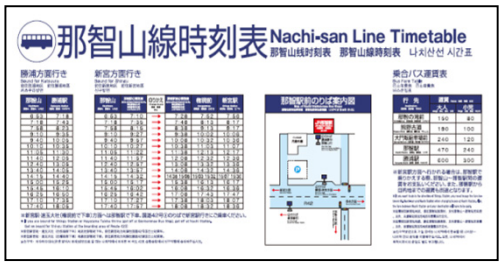
＜土屋先生の意見＞

●以前より非常に分かりやすくなった。

●上下の空いているスペースを使って、もっと大きな看板にするとよい。

■那智山　バス停時刻表

16a



検証調査

●地名だけでなく、行き先や乗り換えなどもすべて英語併記してあるので分かりやすい。（英）

●時刻表が分かりやすい。（英・中）

●英語表記が小さいが、サインに近づけるので問題ない。（英）

●那智駅前のりば案内図は、那智山の周辺案内図と誤解する可能性がある。（中）

＜土屋先生の意見＞

●那智駅前のりば案内図は丁寧でよいが、丁寧すぎても混乱する場合がある。乗降場所。（停留所）に那智山の周辺案内図があるとよい。

串本地区多言語化設置後調査について

串本駅付近

串本駅はシンプルな構造で初めて訪問する外国人観光客にも分かりやすい施設。また、観光案内所も改札から見える位置にあり、今回観光案内所に「ｉ」表示をすることで、より外国人観光客の利便性が向上したと言える。観光案内所では外国人に向けた手作りのパンフレット、地図が整備されていたので、これらを持った外国人観光客の利便性に寄与する案内表示を整備する必要があった。

駅のバスターミナル、観光案内地図も駅及び観光案内所が見やすい位置にあり観光拠点としては外国人にも分かりやすい。今回の多言語案内調査では、今まで日本人観光客向けだったバスターミナル、観光案内図を多言語表示にすることにより、ひとり歩きの外国人観光客向けに対応することができた。串本地区では、潮岬、海中公園、トルコで人気のある樫野崎、橋杭岩と外国人にとっても魅力的な観光地が放射線状に点在しており、バス移動に誘導するためには今回の多言語案内表示は今後の拠点整備からも意義があったと言える。

潮岬、海中公園、樫野崎、橋杭岩

串本地区の観光地は海の景勝地として、国内でも人気の景観型観光地。今回の多言語案内表示ではこれら観光地の魅力を外国人にも伝えることを目的に多言語表示に取り組んだ。今までは日本人向けの案内表示が中心で、特にバス路線では生活路線中心で外国人が観光地を回るバス路線としての機能は不十分であった。今回の調査で分かったことは外国人団体客にはこの地区の観光地は人気のスポットで定番になりつつある。このことから推測すると、今後、ひとり歩きの外国人観光客が増加することが予想されるので、これらの観光客に対応する整備ができたといえる。特に、統一したデザインで、分かりやすい表示にしたことは効果が高い。このことはモニターのヒアリング結果からも複数の意見があった。

今後の課題

モニター調査では串本地区は観光地としての魅力が高く、今回の多言語案内表示によって、ひとり歩きでも行ける体制が整えられたと言える。一方で、この地区はトルコとのゆかりが強く、特定の地域とのつながりがある。ニーズに対応した情報発信をおこないつつ、特定の言語にも対応することも今後の観光地としての魅力を高める意味でも重要。

7.現地調査の実施

■串本駅　観光案内所横

18a

検証調査時

●観光案内所は改札口を出てすぐ正面にあるから分かりやすい。（英）

●ガイド地図は多言語化されていて便利。（中）

●地図のデザインがすっきりしていて見やすい。（英・中）

●観光地の位置関係が見やすくて役に立つ。（英）

●観光案内所の横にあり、改札からの階段をおりたところでもありよく目立つ。（中）

＜参考意見＞

●駅前に別途設置してある串本エリアの地図看板は、地名は英語表記されているが、肝心の「本州最南端」の英語表記がない。また、「現在地」を示す「Present Location」の一般的な表現は「You are here」。

■串本駅　観光案内所

19b

19c

検証調査

●観光案内所は改札口を出てすぐ正面にあるから分かりやすい。（英）

●他に多言語化されたサインが階下にないため、このサインがないと迷う。（英）

●観光案内所のピクトグラムが目立つ。（英・中）

●階段をおりたところで目に入るので分かりやすい。（英）

●他の案内所と同一デザインなのでひと目で認識できる。（中）

7.現地調査の実施

■串本駅　バス停

20a

事前調査

●バス停の時刻表で地名は英語併記されているが、行先と経由地、路線図のルートの併記がないため理解できない。(英)

●観光案内所でもらった時刻表のレイアウトと異なるので分かりにくい。(英)

●路線毎に色分けしてもらえると分かりやすい。(英)

検証調査

●路線図も時刻表も分かりやすい。(英)

●路線図は主要駅が青地に白抜き文字で分かりやすい。(英)

●現在地(You are here)が赤字で路線図と地図の両方に表記してあるとよい。(英・中)

●バス停のサインはあるが、バス乗り場の案内サインが別の箇所にあった方がより分かりやすい。(中)

●上部の南紀観光ガイドの地図にも青地に白抜き文字の表示があればより分かりやすい。(英)

＜土屋先生の意見＞

●主要バス停は多言語化されているので、以前より分かりやすくなっている。

●寺社などメインとなる観光スポットがわかるようなピクトグラムを入れてもよい。

●串本駅から主要地へバスの所要時間が付記してあるとさらによい。

7.現地調査の実施

■串本町　橋杭岩

21a

検証調査

●バス停から案内サインがなくても問題ない。（英）

●ピクトグラムも分かりやすいデザイン。（英）

●説明が多言語化されており、意味がわかって興味深い。（英）

●看板の設置場所が良く、分かりやすい。（英・中／土屋先生）

●「statue」（→「rock」）、「国の名勝天然記念物」は意味が理解しにくいが、その他は問題ない。（英）

●説明内容はよく理解できた。（中）

■串本町　樫野埼灯台案内図

22ab

事前調査

●バス停から間違った方向へ進んでしまった。（英）

●灯台へ行く途中に景観のいい橋を渡るが、そこから見える景色がどこなのかが表示されていると助かる。（英）

●「立入禁止」の看板は日本語表記だけだったので意味がわからない。（英）

検証調査

●地図・イラストとも分かりやすくてよい。（英・中）

●サイズ・文字が小さいので読みづらい。（英・中）

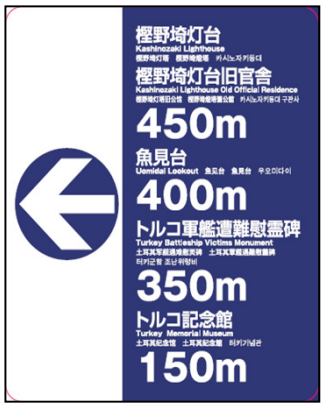
＜土屋先生の意見＞

●イラスト付きの地図でほぼ完璧。

7.現地調査の実施

■串本町　樫野埼灯台誘導看板

23ab



事前調査

●バス停から間違った方向へ進んでしまった。（英）

●灯台へ行く途中に景観のいい橋を渡るが、そこから見える景色がどこなのかが表示されていると助かる。（英）

●「立入禁止」の看板は日本語表記だけだったので意味が分からない。（英）

検証調査

●明確で分かりやすく、距離表示が役に立つ。（英）

●目的地の多言語表記はやや小さいが、距離表示は分かりやすい。（中）

＜土屋先生の意見＞

●「トルコ記念館」「トルコ軍艦遭難慰霊碑」の「turkey」の表現は「turkish」の方がよい 。

■串本町　樫野埼灯台旧官舎

24a

検証調査

●設置場所もよく、多言語化で営業時間も入館料もはっきり記載されていて分かりやすく、説明の翻訳もよい。（英・中）

＜土屋先生の意見＞

●ほぼ完璧。

7.現地調査の実施

■串本町　潮岬バス停

25a

事前調査

●バス停から岬へ行く誘導サインがない。（英）

●さっぱり分からないので他の観光客について行ったり、想像を働かせるしかない。（英）

検証調査

●大きくて、分かりやすい地図。（英・中）

●現在地（You are here）の表示があればもっと分かりやすい。（英・中）

●クルージングのつづりに注意が必要。（英）

■串本町　潮岬観光タワー

26a

事前調査

●誘導サインが日本語表記だけで、芝生を横切っていいのか躊躇する。（英）

●地図には近郊の情報も記載されているので紛らわしい。（英）

●岬の敷地内に特化した地図でバス停の場所を入れてほしい。（英）

●最南端の場所に像があるが、人物名しか表記されていないので誰か分からない。（英）

●太平洋のパノラマ風景なので、沖縄やハワイの方向を示した案内サインがあるとよい。（英）

検証調査

●写真が美しく、営業時間と入場料も分かりやすい。（英）

●右側の青色の囲み部分の説明の字が小さく、チケット売場で並ぶ場所だから近寄れない。横長なので、切り離して設置場所を変えた方がよい。（英・中）

＜土屋先生の意見＞

●右側の青色の囲み部分の説明はチケット売り場に向かって左手に設置する方がよい。その分、看板を右側に寄せれば柱で隠れて見えない写真と潮岬観光タワーの文字も正面から見えてよい。

7.現地調査の実施

■南紀観光ガイド（周遊ガイドマップ）

事前調査

●周遊の情報が少ないので、周遊することが考えられない。（英）

●バスの乗り方が分からない。バスに乗って観光地にいくことが困難。（中）

●日本語版であるイラスト版の地図の外国語表記があるとよい。（英）

●バス路線図の英文版がほしい。（韓）

検証調査

●イラストマップは分かりやすくなった。（英）

●バス路線図が日本語併記なので質問しやすい。（中）

●バスの路線図とセットで便利になった。（中）

7.現地調査の実施

■熊野交通バス車内　停留所名等表示器

事前調査

●バスがどこを走っているか分からなかった。（英）

●どのバス停留所で降りれば良いか分からない。（中）

●バス代が分からない。（韓）

●バスの乗り方そのものが分からない。（英）

検証調査

●降車バス停が良く分かるようになった。（英）

●バス停留所名だけでなく写真が出るのでとても分かりやすい。（中）

●バス降車合図の仕方、料金の払い方が分かった。（中）

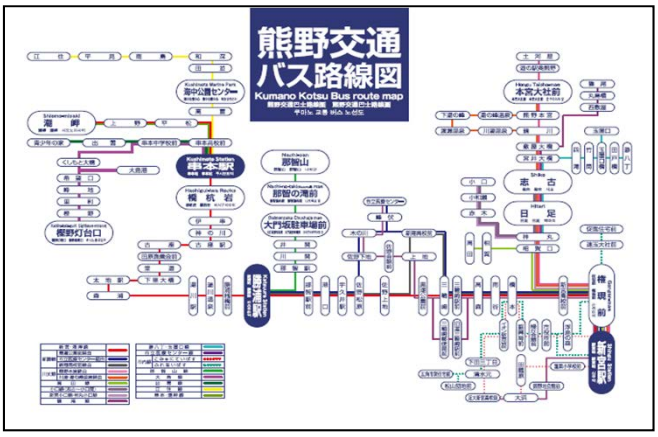
●ハングルの文字が小さくて読みづらい。（韓）

●ワンマンバスの乗り方が分かった。（英）

●もう少し全体的に文字が大きいほうが良い。（中）

7.現地調査の実施

■熊野交通バス車内　路線図



事前調査

●バス路線の広がりが分からない。（中）

●どこに行けるのか、どのバスに乗ればよいかが分からない。（中）

●バスの乗り換えが分からない。（韓）

●路線図が日本語のみで全く読めない。（英）

検証調査

●観光地でないところの外国語が省略されていて、分かりやすい。（韓）

●観光目的地とバスの行き先が分かるようになった。（英）

●バスで行けるかどうかが分かるようになった。（中）

●バス停名と観光地の名称が違いところがありもう少し分かりやすくしてほしい。（英）

●観光路線のみに絞った路線図が欲しい。（中）

●バスが接続している駅が明示されていて良い。（中）

●色数が多すぎてごちゃごちゃしている。（韓）

＜実地調査記録写真＞

■新宮駅　観光案内所入り口

■新宮駅　瀞峡のりば

■新宮駅　お燈祭り銅像横サイン

■新宮駅　熊野交通バスターミナル

■新宮駅　熊野交通バスターミナル

■熊野速玉大社

■志古　ウォータージェット船乗り場

■紀伊勝浦駅　観光案内所

■紀伊勝浦　駅前足湯サイン

■紀伊勝浦　駅階段部分サイン

■紀伊勝浦　熊野交通バス乗り場

■紀伊勝浦　熊野交通バス乗り場

■紀伊勝浦　熊野交通バス乗り場

■紀伊勝浦　バスターミナル

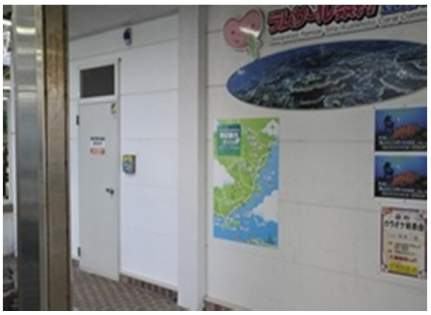
■勝浦港　紀の松島観光船

■那智山　参道入口サイン

■那智山　バス停時刻表

■那智山　大門坂駐車場

■串本駅　観光案内所横



■串本駅　観光案内所

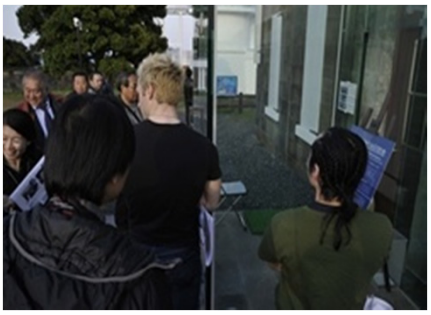
■串本駅　バス停

■串本町　橋杭岩

■串本町　樫野埼灯台案内図

■串本町　樫野埼灯台誘導看板

■串本町　樫野埼灯台旧官舎



■串本町　潮岬バス停

■串本町　潮岬観光タワー